

ND

キャンパス通信

Vol. 25

2026.9

わたしらしく、誇らしく

Be Notre Dame, Be Myself



京都ノートルダム女子大学
KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY

ND VOICE

一人ひとりが作り上げていく ノートルダムの今と未来

京都ノートルダム女子大学 酒井 久美子 学長

今回のND VOICEでは、今年度から学長を務める酒井学長に、
就任時の心境や大学のこれからについて語っていただきました。



ノートルダムの現在地

今、大学に求められるものとは

就任が決まったのは、学生募集停止が決まった後のことでした。閉学に向けてどのようなことに取り組むべきか。これまでとは異なる大学運営をしなければならないことに、身の引き締まる思いでした。本学を卒業し、長きにわたり教員を務めてきたからこそ、学生たちの今と将来を背負う責任を感じています。

大学の今後について見つめなおしたとき、募集停止によって消極的になるのではなく、学生が最後まで充実した学びや経験ができるように、教職員と連携して積極的に大学運営を進めていく必要があると考えました。

現在は、学生にとってどのようなことが大切なのかを意識して日々の仕事にあたっています。学長をしながら教員の業務もこなすのは容易なことではありませんが、この大変さを乗り越えていけるよう努めています。学長としてはゼロベースからのスタートですから、一つひとつを慎重に進めています。教員としてはこれまでと変わることなく、学生とのやり取りを大切にしながら、ともに考え、学びあえるように意識しています。

映画『わたしらしく、誇らしく』を通じて

学生たちの未来に願うこと

上映会に参加し、映画を鑑賞しました。本作品は、本学の過去、現在、そして未来が一つの物語として見事に描かれており、背中を押されるとともに、胸が熱くなりました。多くのメディアで取り上げられ、映画制作に携わった学生たちも自信を得たことと思います。このような学生の姿を見て、他の学生も、挑戦へと踏み出すきっかけとなることを期待しています。本学には控えめな学生が多いものの、興味関心のある分野には深く熱中しています。そして、一人ひとりが異なる「自分らしさ」を持っているはず。映画のタイトルにもなった「わたしらしく、誇らしく」という言葉のように、学生たちには自分が熱中できるものを見つけ、学び、卒業後の人生を誇らしく歩んでほしいと願っています。

学長のこと、もっと教えてください！

Q&A

Q 学生食堂でよく召し上がるメニューを教えてください。

ワンプレートを注文することが多いです。メインや副菜が一通り食べられるのでお気に入りです。

Q キャンパス内でお気に入りの場所を教えてください。

自分の研究室です。海外研修で引率をした際に購入したデンマーク刺繍や、シマエナガの写真を飾っており、仕事に集中したあとに見てリラックスしています。

Q ご自身が京都ノートルダム女子大学に在学されていた頃のエピソードで、思い出に残っていることを教えてください。

バスケットボール部で、外部の方とのやり取りを任されていました。人見知りのため電話対応等は苦手でしたが、こうした経験が現在に生かされています。当時のメンバーとは今でもいい関係を築いています。

今こそ前を向いて

ともに挑戦を続けていきたい

学生募集停止の衝撃は大きかったと思いますが、在学生の皆さんにはこの状況をバネにさまざまなことに積極的にチャレンジし、その経験をこれからに生かしてもらいたいです。

卒業生の皆さんには本学の集大成を見届けていただき、「本学の卒業生で良かった」と、まさに「誇らしく」思ってもらえるような大学運営をしていきます。

教職員も、かつてない状況下で大変なこともあるかと思いますが、最後までやりがいを持って、ともに学生と関わっていきましょう。

このような状況だからこそ工夫してできることもありますし、本学での学びや経験、そして日々の業務の中に、未来に生かせる何かがあると信じて前向きに取り組んでもらいたいです。今後みなさんが歩いていくそれぞれの道で、本学での学びを実感する機会が訪れることでしょう。そんなとき、心のよりどころとして、ノートルダムでの日々を振り返ってもらえたら嬉しく思います。

“映画 『わたしらしく、誇らしく』 ——学生だからこそ見える 大学の風景を、未来へ。”

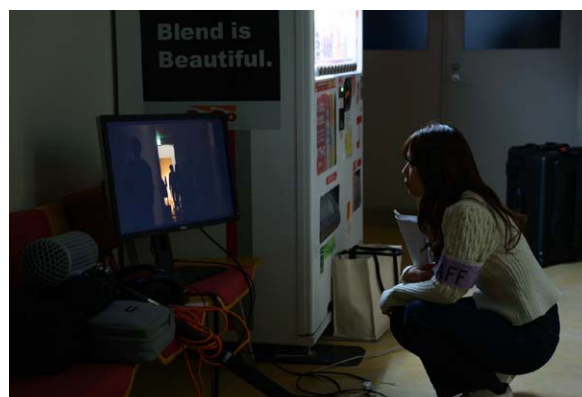
映画制作に取り組んだ

大学広報研究会「MAGIE ESPOIR(マジ・エスポワール)」
の学生たちに、映画制作秘話や作品への思いを聞きました。

映画制作のきっかけ

大学広報研究会「MAGIE ESPOIR(マジ・エスポワール)」は、大学の魅力発信を行う学生団体です。大学の学生募集停止が発表された日、私たちは「これから何を目標に活動すればよいのか」と話し合いました。その中でたどり着いた答えが、「京都ノートルダム女子大学への恩返しをしたい」という思いでした。大学生活を通して多くの経験を積み、大きく成長できたことへの感謝から、「大学の今を未来へ残そう」という新たな目標を掲げることを決めました。

その手段として選んだのが映画制作です。メンバーにはメタバースサークルで映像制作に携わった経験があり、映像作家とのつながりもありました。そうした経験を生かし、「映画という形で大学の記憶を残したい」という思いから、映画『わたしらしく、誇らしく』の制作が始まりました。



PROFILE

大学広報研究会

MAGIE ESPOIR
(マジ・エスポワール)

2023年発足の学生による任意団体。メタバースを活用し全国の高校への出張授業等を行ってきたが、2026年度以降の学生募集停止を受け、現在は「大学の今を未来に残す」ことを目的に、記録・継承型の広報へと活動の幅を広げている。

映画制作プロジェクトメンバー

広報担当
A.S.
(2025年度卒)

代表兼監督
H.O.

副代表
U.K.



映画制作の舞台裏

▶ 映画制作の第一歩 オーディション

映画制作の第一歩は、キャストを決めるためのオーディションでした。芸能事務所や俳優コースのある大学など、関西を中心に約30の団体へ出演者募集の案内を送り、多くの方に企画を知っていただけるよう努めました。

当初は数名程度の応募を想定していましたが、予想を大きく上回る約30名もの応募が集まりました。大学や教員のネットワーク、オーディションサイトなども活用し、幅広く出演者を募集したことが、多くの応募につながりました。

映画では5名のキャストが必要だったため、母親役やOG役を含め、それぞれの役柄にふさわしい方を選ぶためのオーディションを行いました。

▶ 作品への思いが重なった キャストとの出会い

母親役とOG役は40～50代を中心にオーディションを実施しました。応募者には、作品に応募した理由や京都ノートルダム女子大学への印象など、それぞれの思いを伺いました。

その中で特に印象に残ったのが、「私は別の女子大学の出身ですが、祖母から女子大学へ進学するよう勧められて育ちました」と話してくださった方です。かつて女子大学は憧れの存在だったこと、そして女子大学が少しずつ減っている現状を受け、「この作品に関わることで少しでも力になれたらうれしい」と語ってくださいました。

作品への思いと演技力、そのどちらも申し分なく、「この方がいい」と感じ、その場で出演をお願いしました。



01 巻頭特集

ND VOICE

京都ノートルダム女子大学
酒井 久美子 学長

03 TOPIC

映画

『わたしらしく、誇らしく』
——学生だからこそ見える
大学の風景を、未来へ。

07 学生INTERVIEW

- ・キャリア実習
- ・社会福祉法人 京都福祉サービス協会
- ・社会情報海外キャリアインターンシップ
- ・サークル活動「NDコミュニティダイニング」
- ・精神保健福祉士養成課程

09 留学生特集

11 研究者インタビュー

心理学科 松島るみ 教授
国際日本文化学科 鷲見 朗子 教授

13 先生たちに聞いてみた

14 NDと社会

15 NEWS

17 INFORMATION

18 SCHEDULE

監督が明かす、制作のリアル

—脚本から撮影、完成まで—

監督として担当したのは、脚本の作成とプロジェクト全体のマネジメントでした。

脚本づくりで最も苦労したのは、物語の大筋を具体的なセリフへ落とし込む作業です。特に、卒業生「幸子」の設定には細心の注意を払い、京都ノートルダム女子大学の歴史に沿った人物像となるよう、卒業年度や学科名などを一つひとつ確認しながら制作を進めました。

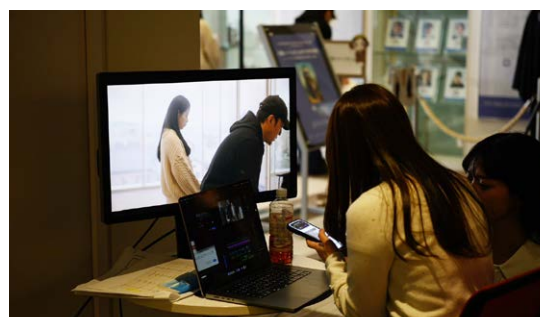
物語では、現在の在学学生「真衣」と劇中に登場する卒業生「幸子」の二人を軸に描いています。聖堂は「チャペル」とも呼ばれますが、かつては多くの人が「お御堂^{みどう}」と呼んでいたことや、1980年代にはキャンパスのさくらんぼをカラスと取り合っていたという卒業生の思い出など、時代によって変わったもの、変わらないものを丁寧にセリフへ織り込みました。作品をご覧になる皆さんに、「懐かしい」「あったあった」と感じていただける作品をめざしました。

撮影が始まると、現場は時間との戦いでした。予定通りに進むことは少なく、1時間ほど押してしまうこともありました。特に2日目は、その日のうちに撮り切ることを前提にスケジュールを組んでいたため、キャストの負担や追加費用

も考慮しながら、限られた時間で撮影を進める必要がありました。また、天候や光の条件にも左右されるため「このシーンはこの時間でなければ撮れない」という制約も多く、現場では常に状況を見極めながら判断を重ねていました。

そんな撮影の最中、2日目の直前には体調を崩し、当日は薬で熱を抑えながら現場に立ちました。それでも、「ここで頑張らなければ、いつ頑張るんだ」という思いで撮影に臨み、無事に乗り切ることができました。この経験を通して、自分は本当に大学のことが好きなのだ改めて実感しました。

撮影後、療養期間中に別の映画を見る機会がありましたが、これまでとはまったく違う視点で映画を観ている自分がいました。カットのつながりやカメラワーク、構成の意図など、作品の裏側を自然と意識するようになり、「映画はこうしてつくられているのか」と実感しました。今回の映画制作は、一つの作品を完成させるだけでなく、映画そのものの見方を大きく変えてくれる貴重な経験になりました。



京都ノートルダム女子大学の魅力とは？

映画制作を通して改めて感じたのは、京都ノートルダム女子大学が、多くの方々に深く愛されている大学だということです。上映会には海外にお住まいのOGの方からも「ぜひ参加したい」というお声をいただきました。また、映画制作では70名を超える方々からご寄付や温かい応援のメッセージをいただき、「みんなで支えます」「私たちは味方です」という励ましの言葉に何度も背中を押されました。こうした経験を通して、この大学には卒業後も母校や後輩たちを思い続け、応援してくださる方が数多くいることを実感しました。

私たちも、この大学の魅力は、学生一人ひとりの「やってみよう」という思いを受け止め、実現できるよう寄り添ってくれる温かな校風や環境にあると感じています。その環境があるからこそ、人と人とのつながりが生まれ、卒業後も変わらない愛校心へとつながっているのだと思います。

作品に込めたメッセージ

私たちは、学生募集停止が決まってから、「京都ノートルダム女子大学の魅力を記録と記憶に残すこと」を目標に活動してきました。この映画は、その思いを形にした一つの成果です。この作品を通して、卒業生や関係者の皆さんには、大学で過ごした時間を懐かしく振り返っていただき、初めて本学を知る方には「こんな大学があったのだ」と感じていただければ嬉しく思います。そして何より、この映画が京都ノートルダム女子大学という場所を未来へつなぎ、校舎や風景、学生や教職員たちが過ごした時間、そして多くの人の思いを心に残す作品となることを願っています。



Message

大学広報研究会
「MAGIE ESPOIR (マジ・エスポワール)」

活動の様子や最新情報はこちら！

活動の様子を見る



イベントや日々の活動を紹介！



マジカル★ダムラジオ



Spotifyで好評配信中！



映画
「わたしらしく、誇らしく」



YouTubeで公開中！



私たちマジ・エスポワールはこれまで、入学者数の増加をめざし、高校への出張授業やさまざまなイベントを通して、「京都ノートルダム女子大学」の魅力を多くの方に伝えてきました。

しかし、2026年度からの学生募集停止を受け、団体としてのあり方も大きく変化しています。

現在は、「**京都ノートルダム女子大学**」が学生に寄り添ってくれる素晴らしい大学であったことを記録し、多くの人の記憶に残し続けることをめざして活動しています。

「京都ノートルダム女子大学」の魅力を、記録と記憶に。
これからも、京都ノートルダム女子大学の“いま”を未来へつないでいきます。

学生INTERVIEW

学びや挑戦を通して成長する学生たちにインタビュー！

必死に学んだ充実の5日間
実習での経験が大きな自信に

キャリア実習
社会福祉法人 京都福祉サービス協会



実習先の児童館にて、おやつ配膳にかき氷のシロップかけを手伝っている様子

キャリア実習では、もともと関心のあった、人々の生活を支える福祉の分野に携わる実習先を志望しました。5日間の実習では幅広い利用者の方と接する現場に赴き、ヘルパー会議への参加、訪問介護への同行、配食など、貴重な体験をさせていただきました。毎日が初めての連続で、理解が追いつかないこともしばしば。しかし、私のために時間を作ってくださる職員の方々の想いに応えようと、必死に復習を重ねました。この5日間を通じて、職員の方々が志を高く持って活動されているからこそ、利用者の皆さんの笑顔が生まれるという、福祉事業の素晴らしさを実感。「仕事を通じて人々を幸せにしたい」という目標ができました。この思いを胸に、誰かの支えになれる社会人をめざしていきたいです。



心理学科 3年次生
M.I. さん

Q ご自身が成長したと感じるポイントはどこですか？

A 5日間、毎日異なる事業所での実習だったので、初めてのことを理解し、自分なりにまとめ、取り組む姿勢を意識しました。実習先やキャリアセンターの先生からお褒めの言葉をいただいたので、これを糧にさらなる成長に向けて、努力を続けていきます。

Q 読者へのメッセージをどうぞ！

A 実習の経験が、私に自信とやりがいを持たせてくれました。実習は将来を考えるきっかけとなる貴重な機会です。皆さんもぜひ積極的に挑戦し、自分の可能性を広げてください！

NDコミュニティダイニングは、PBL※型授業「キャリア形成ゼミ」を受けていた仲間と共に立ち上げたサークルです。地域の方々や学生、孤食になりやすい高齢者の方々が気楽に訪れ、食事を通じて交流できる場をつくることを目的に、2025年7月から月に1回、全8回にわたって学内の食堂でイベントを開催しました。サークルでは会長を務め、イベントの企画や広報、当日の運営を担当。食に関する幅広い知識を学んだほか、実際に厨房での盛り付けも経験しました。

お客様の笑顔や「美味しかった」「楽しかった」と言ってもらえたときの嬉しさは今でも忘れられません。仲間と協力してイベントをつくり上げ、人の心を満たせた経験は、私にとって大きな財産になっています。



心理学科 4年次生
Y.Y. さん

Q イベントで行った取り組みを教えてください。

A 企画・運営した「NDすこやか食堂」では、地域直送の野菜販売のほか、ビンゴ、クイズラリーなども実施し、人と人をつなぐ場づくりに取り組んでいました。

Q 困難に感じたことと、その乗り越え方は？

A 所属人数が少ない中で、活動を継続していくことです。企画の立案から運営までを限られた人数で行う必要があり、一人ひとりの負担が大きくなりやすかったため、役割分担を工夫しました。

※PBLとは、Project(またはProblem)Based Learningの略語。学習者が「問題を見つけ、解決する能力を身につける実践的な学習方法。課題解決型学習などと呼ばれる。

食をきっかけに交流の場をつくり、
人の心を満たす

サークル活動「NDコミュニティダイニング」



シリコンバレーで実務に挑んだ日々
逆境の中で培った主体的に行動する力

社会情報海外キャリアインターンシップ



シリコンバレーで実際に働く経験を、今後の成長の糧にしたいという思いで海外インターンシップへの参加を決意。セキュリティアプリの開発を行う企業で、デジタルマーケティングの実務を経験しました。現地にはマニュアルがなく、与えられるのはヒントのみ。そのため、専門領域の学習には人一倍打ち込み、知識や技術を吸収できるよう努めました。また、現地ではインド出身の方が多く、英語でのやり取りが中心だったため、言語の壁に直面することも少なくありませんでした。そこで、必要に応じて内容を文字で共有してもらったりなど、自分なりに工夫を重ねました。答えや明確な指示がない環境だったからこそ、自ら考え、行動することの大切さを学ぶことができたと感じています。



社会情報学環 3年次生
M.M. さん

Q 最も今につながっている学びは？

A 分析したデータの可視化に取り組んだ経験です。インターンシップの中で最も苦労しましたが、諦めずに勉強を続け、HubSpotデジタルマーケティングの認定資格を取得することができました。

Q 現地の生活で大変だったことはありますか？

A 遠く離れた異国でのホームステイです。言葉や文化の違いから、ホストファミリーと意見が合わないことも多々。周囲に助けを求めながら、臨機応変な対応を心がけました。

中学生の頃から、人を支える仕事に就きたいという思いがありました。大学で精神保健福祉士という仕事を知り、この道を志すように。資格取得に向けた授業で先生がおっしゃっていた、「精神保健福祉士は、障害のある方がその人らしく生活できるよう、そっとお節介をかける仕事」という言葉は今も心に刻まれています。実習先の就労継続支援B型事業所や病院のデイケアでは、利用者の方々のこれまでの歩みや病気に対する思いを伺い、「その人らしさ」に触られました。実習は大変なことも多かったですが、一人ひとりに寄り添う支援の大切さを実感できる良い機会になりました。将来は、精神障害への正しい理解を広め、多くの人に安心を届けられる精神保健福祉士になることをめざしています。



心理学科 4年次生
K.K. さん

Q 困難に感じたことと、その乗り越え方は？

A 常に気を張ってしまい、終業後や週末も十分に休息を取れなかったことです。実習指導の先生に相談したことで、自身の状態を客観的に捉えることができ、少しずつ気持ちを切り替えられました。

Q ご自身が成長したと感じるポイントはどこですか？

A 周囲に相談する力が身につきました。「分からないことは教えてもらう」「失敗は共有する」ことの大切さを学び、困ったときには周囲を頼りながら行動できるようになりました。

※精神保健福祉士は、精神的な障害や心に不調を抱える方の相談に乗り、社会復帰や日常生活の自立をサポートする専門職。国家資格取得が必要。

実習を通して学んだ
精神保健福祉士※の役割と相談の大切さ

精神保健福祉士養成課程



留学生特集

To Notre Dame

今号では、海外から京都ノートルダム女子大学へ留学している4名にインタビュー。現在本学には9か国37名の留学生在が来日し、日々勉学に励んでいます。本学を選んだ理由や大学生活について迫ります。

唯一のネパール人学生

国境を越えて広がった学びと成長

From  ネパール

女性キャリアデザイン学環 2年次生 R.S. さん

Q. 京都ノートルダム女子大学を選んだ理由はなんですか？

A. 学校見学に訪れた際に、教職員と学生が近い距離で対話し、一人ひとりを大切に指導する環境が印象的でした。ここであれば、自分らしくステップアップし、自分だけでは成し遂げられないことにも挑戦ができると感じ、進学を決めました。

Q. 大学に入学してから、思い出に残っている出来事を教えてください。

A. 韓国の済州島を訪れ「Global Uniforce 2025」に参加したことです。さまざまな国の大学生と交流し、多くの刺激を受けました。大好きなドラマ『おつかさま(When Life Gives You Tangerines)』のロケ地巡りや、韓国料理も満喫でき、忘れられない思い出になりました。



日本の文化や魅力を吸収し、 海外向けに発信したい

From  ミャンマー

国際日本文化学科 2年次生 E.K. さん

Q. 勉強以外で、大学内で参加している活動について教えてください。

A. 学内で募集されていた祇園祭の学生ボランティアや、所属する京都市国際交流協会のさまざまな活動に参加しました。その中で、他大学の学生や地域の方々と交流を通じ、母国とは全く違う日本文化を肌で感じられたことは貴重な経験となっています。

Q. 大学での学びの中で、面白いと感じていることを教えてください。

A. 日本語や日本文化をさまざまな切り口から学べることです。日本社会や異文化コミュニケーションなど専門的な授業は、自分とは異なる考え方や新たな発見の連続で、常に新鮮な気持ちで勉学に励んでいます。

日本と母国を「食」の力で結べる存在をめざして

From  中国

生活環境学科 2年次生 Y.H. さん

Q. 京都ノートルダム女子大学を選んだ理由はなんですか？

A. 日本の文化・教育への興味がきっかけとなり日本での進学をめざしました。特に本学は、校風や学修環境はもちろん、生活環境学科で実践に根ざした衣・食・住に関わる学びができることが決め手でした。

Q. 大学に入学してから、思い出に残っている出来事を教えてください。

A. ND祭です。日本人学生・留学生のみんなで協力して、中国の水餃子やベトナムの春巻きを調理、販売しました。「食」を通じて多くの友人を作ることができ、さまざまな文化を知る良い機会にもなりました。



異文化理解を強みに

ホスピタリティのプロフェッショナルへ

From  ベトナム

英語英文学科 2年次生 N.L. さん

Q. 大学での学びの中で面白いと感じていることを教えてください。

A. 日本人学生と留学生では、同じテーマでも捉え方が大きく異なることです。授業内のディスカッションでは、育った環境や自国の文化が各々の意見に表れていて、自分の視野が広がっていると感じました。現在は文化や価値観の違いを考慮しつつ、自分の考えを伝える練習をしています。

Q. 希望している進路について教えてください。

A. 卒業後は、ホスピタリティ業界で経験を重ね、お客様に安心と心地よい時間を届けられる人材になりたいです。大学で培った語学力や異文化理解力を糧に、さまざまな国や地域の方と信頼関係を築きながら、グローバルに活躍できるサービスのプロフェッショナルをめざします。





まつしま
松島るみ 教授
心理学科

2002年から本学講師、准教授を経て、2016年より現職。専門分野は教育心理学。学習者の自律的学習態度を規定する要因を主な研究テーマとする。著書に『教職を学ぶ人の新・教育心理学』（共著、教育情報出版）。

研究者 インタビュー

本学の教員たちは幅広い研究分野において活躍しています。今回は、松島先生と鷺見先生の研究をご紹介します。

すみ あきこ
鷺見 朗子 教授
国際日本文化学科



本学卒業生。2001年米インディアナ大学ブルーミントン校大学院で博士号を取得後、1999年在レバノン日本国大使館専門調査員に着任。2001年に本学講師等を務め、2010年から現職。専門はアラブ文学とアラビア語教育研究。

タイとの文化比較から女性の健康課題を見つめ、本来の力を発揮できる社会へ

2025年度 京都ノートルダム女子大学研究助成金研究成果報告

研究テーマ 日本とタイにおけるジェンダーに対する意識・女性の健康課題に関する文化比較調査結果のプレゼンテーションおよび健康課題解決に関する教材開発の取り組み※

研修期間 令和8年2月14日～令和8年2月18日 **研修先** タマサート大学ランシットキャンパス(タイ王国、以下 タイ)

国外研修助成金(短期) ▶ 2週間程度の国外での学会発表や研究・調査に対する、大学から本学専任教員への研修助成金

Q. どのような研究に取り組まれましたか？

女性が本来の力を発揮し、学び、成長していくためには、ジェンダーや女性の健康課題の解決に向けた視点が欠かせません。アジアの中で、日本のジェンダーギャップ指数よりも高いタイに注目し(2025年度ジェンダーギャップ指数:日本118位、タイ66位)、日本とタイの大学生を対象に、ジェンダーに対する意識や、代表的な女性の健康課題である月経への捉え方について

文化比較研究を進めています。タイは日本よりも多様性を尊重する価値観が社会に根付いています。月経についても、個人だけの問題ではなく、社会全体で向き合うべきテーマとして捉える傾向が見えてきました。今回の研修では、タマサート大学で共同研究の成果を報告し、現地の教員や学生と、調査結果の背景や文化的な違いについて意見交換を行いました。

Q. タイでの新しい発見・今後への展望

共同研究の成果発表に加え、学習科学教育学部の教員や学生たちと日本とタイのジェンダー意識について意見を交わし、研究への助言や学生の率直な声など、今後につながる知見を得ることができました。また、月経に関する正しい知識を身につけ、周囲の理解や支援について考えることを目的に、本学の学生と開発した教材「生理すごろく」のプレイテストも実施しま

した。これは、月経にまつわる知識や課題について学び、参加者同士で意見を交わせる教材です。現地の学生や教員から得た意見を生かし、今後は文化を超えて学べる教材へと発展させていきたいと考えています。学生の皆さんにも、多様な価値観に触れ、対話を通して社会課題を自分ごととして考えたり、行動したりする機会を学生時代に経験してほしいと願っています。



※詳細はこちらをご覧ください。Matsushima R., & Juntrasook A. (2026). Cultural Differences in Past Experiences and Attitudes Toward Menstruation Among Japanese and Thai Female University Students. The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2026 Official Conference Proceedings (pp. 191-201)

アラブの文学・文化が持つ多様な魅力を探求し、その豊かな世界を読み解く

Q. アラブ文化の研究を始めたきっかけを教えてください。

カリール・ジブランの詩集『預言者』の和訳を読んだことが、アラブ文化に興味を持ったきっかけです。ジブランはアラブ諸国の一つである、レバノン出身の詩人。彼の描く作品の、広大な宇宙を思わせる壮大

さと神秘性に魅了されました。そこからアラビア語で書かれた詩や小説を読むようになり、研究の道へと進んでいきました。現在は、アラブ古典詩や『アラビアンナイト』という物語集を主に研究しています。

Q. アラブ文化の特徴や魅力を教えてください。

アラブ文化の大きな魅力は、日本とも共通する「おもてなし」の精神です。アラブ地域には、古くから砂漠の過酷な環境の中で培われた「客人を手厚くもてなす文化」が根付いています。例えば、会食に招かれた際には、食べきれないほどの御馳走が振る舞われ、盛んに食事を勧められます。こうした気前の良さは、徳の高さの証明とされているのです。また、アラブ人の多くは日本に好意的です。現地で

は、日本の戦後復興や高度経済成長を遂げた技術に対するリスペクト、さらには日本車やアニメといったポップカルチャーへの愛着が広く浸透しています。地理的には遠く離れたアラブ諸国と日本。しかし、「他者を思いやり、手厚く迎える」というおもてなしの精神は深く共通しています。さらに、彼らが日本に対して抱く親愛の情を知れば、アラブの国々を身近に感じられるのではないのでしょうか。



Column イスラーム建築の魅力を翻訳を通して日本へ発信

- 近年アラブ古典詩における建築描写の研究を進める中で、『世界のイスラーム建築美術 大図鑑』(河出書房新社 2025年)の翻訳依頼を受け、担当しました。本書は、イスラーム建築の壮麗さと精緻な美の極致が、美しい写真と解説で紹介されています。その圧倒的な美しさは、実際に現地を訪れたい強い思いに駆られるほどです。本学図書館にも所蔵されていますので、ぜひ手に取ってその魅力を感じていただきたいです。

メッセージ

毎年後期に本学で「アラビア語」を開講しています。アラビア語は国連の公用語でもあり、世界的に重要な言語の一つです。流れるような美しい文字も大きな魅力で、学ぶ機会が限られている貴重な言語でもあります。本学で学べるチャンスを活かし、ぜひ履修してその奥深い魅力に触れてみてください。

先生たちに聞いてみた

着任された先生より

2026年4月に新しく着任された先生3名にお話を伺いました。

Q1 研究分野 Q2 本学でやってみたいこと・経験したいこと

TANAKA Miwako



田中 美和子 特任教授
英語英文学科

兵庫県神戸市出身。関西外国語大学大学院博士課程修了。博士(英語学)。本学では非常勤講師として20年前から教鞭をとる。専門は言語学。

Q1

私の専門は「言語学」で、主に英語と日本語を対象に研究しています。

文法というもの単なるルールではなく、思考や社会と結びつきながら変化する「生きたシステム」です。「**ことばを知れば人間を知ることができる**」そんな言語の面白さを皆さんと共に感じていきたいと考えています。

Q2

図書館が好きなため、**学内の図書館も積極的に利用したい**です。また、これまでに培ってきた経験を生かし、**私自身が面白いと感じる授業を実践し、学生たちにことばの魅力を伝えていきます**。授業以外でも、学生の皆さんと関わり交流を深めたいです。

Message

大学で過ごす4年間はただ卒業を待つ時間ではなく、何か好きなこと、心惹かれることを見つける時間であり、それに熱中できる密度の濃い貴重な時間です。皆さんが胸を張って社会に羽ばたいていけるように、この大学生活を楽しんで過ごしていきたいと思います。

TSURUTA Kaoru



鶴田 薫 特任講師
心理学科

上智大学卒業後、メーカー勤務を経て、甲南大学大学院にて臨床心理学を学び、修士課程(社会学)を修了。臨床心理士、公認心理師の資格を取得し、医療・教育・福祉の分野で心理職を歴任。本学では20年前から非常勤講師として勤務。

Q1

心の問題を抱える人々を支援する実践的学問である「臨床心理学」を専門としています。臨床の現場では、「私は何も悪いことをしていないのに、なぜこんなに苦しまないといけないのですか?」と来談者に問われることが多くあります。「**治療者としてその問いにいかに向き合うか**」が、**研究者となった現在のテーマ**です。

Q2

自分も大学生・大学院生の頃には先生方に変にお世話になりました。そのため、自分も恩師の姿に倣い、学生さんたちと関わり、**人としても心理学に関わる者としても成長を支えられるような存在になりたい**です。

Message

自由に過ごせる時間がたくさんある大学生活を、ぜひ思いきり謳歌してほしいです。さまざまなことへの挑戦を通し、自分が興味を持てることを見つけ、友だちや先生との素敵な出会いに恵まれることを願っています。キャンパスで見かけた際は、ぜひ気軽に声をかけてください。

OGAWA Keiko



小川 圭子 特任教授
こども教育学科

筑波大学大学院人間総合科学研究科後期博士課程修了。博士(学術)。幼稚園教諭として20年間勤務後、大学教員に転身し幼児教育を専門に研究を行う。近著は『保育者論』『新・保育と環境』等。

Q1

幼稚園で担任を務める中で、発達障害のある子どもとの関わりを通して、一人ひとりの育ちを支える保育環境や保育者の役割に関心を持ちました。現在は、**日本と台湾において、子どもが地域文化を受け継ぎ、新たに表現していく文化継承教育を研究**しています。

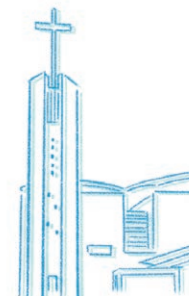
Q2

授業を通して、学生の子どもへの理解や幼児教育への関心を深めたいと考えています。**保育の楽しさや奥深さを実感できる授業を学生とともに創り上げ、充実した学びの時間にしていきたい**です。

Message

保育は、知識や技術を身につけることがゴールではありません。子どもや保護者、仲間との出会いや関わりの中で成長を重ねる仕事です。失敗を恐れず、一つひとつの経験を大切にしながら、たくさん考え、感じ、行動してください。その積み重ねが、きっと皆さんらしい保育者への歩みにつながります。

NDと社会



本学は地域連携・産学連携をはじめとした社会貢献活動を行っています。今号は2025年度に実施した取り組みについてご紹介します。

▶ 学生視点で探る「植物園の新しい楽しみ方」―連携授業の成果― 2026年1月15日

社会情報学環では、京都府立植物園と連携し、植物園および北山エリアの活性化をテーマとした成果報告会を実施しました。学生たちは来園者を対象にアンケート調査を行い、その結果を分析。ピクニックグッズの貸し出しや散策コースの提案、夏季の夜間活用による新たな楽しみ方など、学生ならではの視点から企画を発表しました。京都府文化施設政策監付職員や植物園職員の方々から好評を得るとともに、特に若い世代ならではの柔軟な発想に期待が寄せられました。地域課題の解決に向けた実践的な学びとなりました。



▶ 院内学級の子もたちと交流―「NDラボ2025」を開催 2025年12月18日・2026年3月3日

小児医療ボランティア「NDラボ2025」をオンラインで実施しました。現代人間学部共通教育科目「病児の発達と支援」を履修した学生は、「小児医療ボランティア実践」の一環として、京都市立桃陽総合支援学校の分教室である院内学級の子もたちとの交流活動に取り組んでいます。2025年度は「万博」や「星」をテーマに、クイズや工作を取り入れた協働型プログラムを実施。学生たちは子どもたち一人ひとりの声に耳を傾け、やり取りを重ねながら一緒にゲームを楽しみました。活動を通して、企画力や協働力を高める実践的な学びの機会となりました。



▶ 株式会社半兵衛麴との産学連携による最終報告会を実施※1 2026年1月23日

心理学科では、「社会・ビジネス心理フィールド研修」において株式会社半兵衛麴と連携して活動したプロジェクトの最終報告会を実施しました。学生たちは「京麴の魅力若者の視点から再発見し、幅広い世代に発信すること」をテーマに、女子大学生を対象としたアンケート調査を実施。若年層のニーズ分析をもとに、お麴を使ったスナック菓子や商品パッケージの提案、レシピ動画の制作、SNSを活用した情報発信などを発表しました。企業からの講評を受けながら提案を磨き、実社会と結びついた学びを深めました。



▶ 学生が発信する伝統文化の魅力―北山エリア活性化実証実験― 2026年3月9日

女性キャリアデザイン学環1年次生が、京都府立植物園で実施された北山エリア活性化実証実験に参加しました。学生たちは公益財団法人京都 清宗根付館と連携し、トヨタ自動車株式会社の次世代モビリティ「e-Palette※2」を活用した「伝統文化ミュージアム」を企画・運営。車内では根付の展示を行い、車外では3D制作実演や根付レプリカの絵付け体験ワークショップを実施しました。本企画は、授業「フィールドワークⅠ(Will)」で取り組んだ壬生地域の歴史・文化資源の魅力発信に関する提案※3をもとに実現したもので、多くの来場者と交流しながら地域文化の魅力発信する実践的な学びの機会となりました。



※1※3 令和7年度京都未来人材育成プロジェクト採択事業です。成果報告会(2026年3月1日)では、半兵衛麴チームが口頭発表、壬生地域活性化チームがポスター発表を行いました。また、「地元に変えられる商店街づくりをめざして」(生活環境学科・三好明夫教授)も同プロジェクトに採択されています。

※2 「e-Palette」とは、トヨタ自動車株式会社が開発した、移動や店舗など多用途に活用できる次世代電気自動車。



京都橘中学校・高等学校「ウェルビーイング講座」に 本学学生団体が協力



6月24日、京都橘高等学校で実施された高校3年生対象「橘みらい講座『ウェルビーイング講座』」に、本学大学広報研究会MAGIE ESPOIR(マジ・エスポワール)が協力しました。

本講座は生徒同士のコミュニケーションを深めながら、自らや周囲の幸せについて考える力を育むことを目的として毎年開講されています。マジ・エスポワール制作の映画『わたらしく、誇らしく』(2026年3月上映)を同校教員が知ったことをきっかけとして、高校の学校紹介動画制作ワークショップを本学学生が担当することとなりました。

今回、授業構成から当日の進行まで学生たちが主体となって行いました。学生たちが伝えたいこととして重視したのは、「まず伝えたいメッセージを考えること」。学生たちから短編映画に込めた思いや映

像表現の工夫が語られた後、生徒たちはグループに分かれて、「京都橘高校の好きなところは?」「京都橘高校らしさとは?」をテーマに活発な意見交換を行いました。学生たちは、「仲間とイメージを共有すること」「想定外を楽しむこと」といった映像制作のポイントを助言し、生徒たちの発想を引き出しました。

参加した生徒からは「大学生との交流で自分にはない考えを知ることができ楽しかった」などの感想が寄せられました。

学校紹介動画は本年秋頃の完成をめざし、京都橘高等学校内で披露される予定です。

今回の取り組みは、高校生にとって表現力や主体性を高める機会となるとともに、本学学生にとっても学びを実践する貴重な経験となりました。



2025年度 学生表彰式を執り行いました

3月13日、2025年度学生表彰式を執り行いました。中村久美前学長より成績優秀者(各学科1名)や課外活動・社会活動で成果をあげた学生団体、資格取得で優秀者表彰等を受けた学生に、賞状が手渡されました。



- | | | |
|--|---|--|
| 資格関係表彰
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士 心理学科 ・保育士 子ども教育学科 ・フードスペシャリスト 生活環境学科 | <ul style="list-style-type: none"> ・祇園祭絵本 (『ぎおんまつりやまほこものがたり2』) 制作チーム ・人間関係をめぐる共生と福祉ゼミ ・心理学科 尾崎ゼミ・松島ゼミ 3年次生 ・観光と地域活性 福井県プロジェクトチーム ・京都府自死対策カレッジ会議 (京都ノートルダム女子大学メンバー) | <ul style="list-style-type: none"> ・MAGIE ESPOIR(マジ・エスポワール) ・バドミントン部 |
|--|---|--|



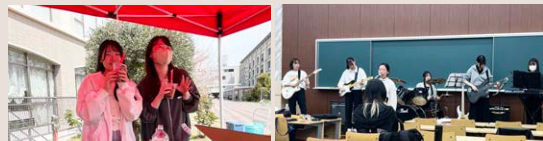
補助金活用で実現、 100円ランチが学生に好評

京都府による大学生物価高騰対策緊急生活支援事業の補助金を活用し、本学では学食で100円ランチを実施しました。5月11日から50日間、先着30名の学生に昼食を100円で提供しました。600円相当のボリュームのある定食は、多くの学生から好評を得ました。



春のミニND祭を開催

4月6日、学生会執行部会主催の学生交流イベント「春のミニND祭」を開催しました。在学生に前向きな新学期のスタートを届けることを目的に、音楽演奏や文化系クラブの日ごろの成果の発表や体験企画、飲食ブースなど多彩な催しを実施。当日は約200名が参加し、学内は終始にぎやかな雰囲気になりました。



3年次生対象の 第1回キャリアガイダンスが 実施されました

5月13日、3年次生を対象にキャリアガイダンスを開催し、119名が参加しました。進路選択に向けた意識づけを目的に、進路別の動向や支援内容の紹介、教員からの講話、4年次生による体験談が披露されました。学生は幅広い視野での企業研究やインターン参加の重要性を学び、今後の就職活動に向け理解を深めました。



交通安全ボランティア「ガーモ FrieND」委嘱式と啓発活動を実施

4月8日、交通安全ボランティアチーム「ガーモFrieND(フレンド)」の委嘱式が本学聖堂にて執り行われました。式後には左京警察署と、食堂で交通安全啓発活動を実施。今年度から導入された自転車の青切符制度の周知などを通じて、交通ルールの遵守と事故防止を呼びかけました。



新緑のリース制作を 通して育む表現力

6月19日、生活環境学科グレイスプログラムにて、西村真奈美講師によるプリザーブドフラワーの授業を、キャロライン館アセンブリホールで実施しました。学生は「新緑のリース」制作に挑戦し、リボン作成から取り組みました。講師の指導のもと、主体的に質問しながら、それぞれのペースで制作に没頭する姿が見られました。本プログラムは、感性と専門性を磨き、将来のキャリア形成につなげることを目的としています。



葉山中学校と連携し 大学見学会を実施

5月22日、栗東市立葉山中学校のキャリア学習の一環として、2年生14名を対象に大学見学会を実施しました。大学紹介や心理学科下田准教授の模擬授業、在校生によるキャンパスツアー、ランチ体験を通して、日々の中学校での学びを振り返るとともに、大学生生活を体感していただきました。



「学長と大学のことを 語り合おう」を開催

カトリック教育センターを会場として、卒業生である酒井学長と学生が大学について理解を深める時間を持っています。初回の6月11日は学生4名が参加し、ざっくばらんな雰囲気の中で意見交換が行われました。後期は10月8日、11月19日、12月10日、1月7日の開催を予定しています。



ことばが未来をつくる—— 元NHKアナウンサーが特別講義

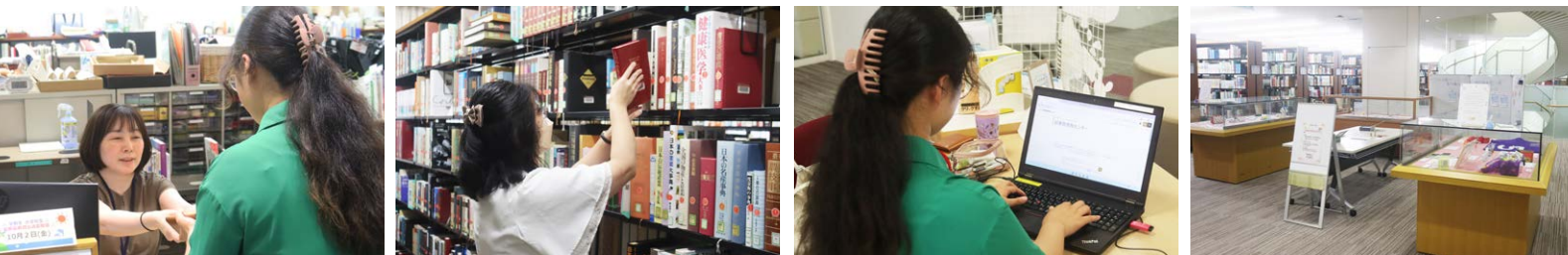
6月24日、平野教授担当科目「スピーチの基礎」に元NHKエグゼクティブアナウンサー村上信夫氏が登壇。「自分の未来に気づくことば」をテーマに講話し、学生23名と教員3名が参加。ことばを集め、自らのことばが未来をつくる意識を持つよう呼びかけました。



在学生と歩み続けるために

学生や教員の研究・調査を支える図書館。

図書館事務室の方に、図書館での業務内容や、お役立ち情報についてお話を伺いました。



Q 図書館では普段どのような業務を行っていますか？

館内資料の貸出・返却や資料探しのお手伝い、本学にない資料の取寄せなどがあります。利用者は主に本学学生・教職員ですが、卒業生や学外の方もいらっしゃいます。安心してご利用いただけるように、館内の施設やセキュリティ管理も行っています。また、1階にはテーマ展示のスペースを設けて蔵書の紹介をしていますので、ぜひお立ち寄りください。関心のなかった本とも出会えますよ。

Q 印象に残っている学生とのエピソードを教えてください。

学生アルバイトさんと、ある小説家の話題になりました。私の知らない小説家でしたが、お話を聞いていると、大学生に人気とのこと。その後、調べてみると書店は品切れ、公共図書館も予約待ちの状況でした。このように学生さんから教わることもあります。

Q 図書室のお役立ちサービスを教えてください。

■ レファレンス・サービス

本や資料の探し方をご案内したり、資料の提供を行ったりして、利用者の調べ物のお手伝いをいたします。

■ ラーニング・サポート

資料探しやレポートの相談を受け付けています。本学は大学院生が担当していて、短い時間ですがほぼ毎日、開設されています。

■ マイライブラリ

ご自宅から購入希望や文献の依頼、貸出の延長手続きなどを行っていただけます。

■ 地階の集密書庫

温湿度管理のために扉を閉めているため、利用できないと思われることもありますが、電動書架を自由に動かして資料を探していただけます。

■ グループワークスペース

1階と地階にある館内のグループワークスペースを、予約されていない時間帯に開放しています。クラブやゼミのミーティングなどに気軽にお使いいただけます。

■ ラーニングコモンズ

図書館資料を持ち寄り、話し合いながら学習できるオープンスペースです。ホワイトボードや電子黒板、円形ソファを設置しています。

図書館利用で景品がもらえる！ 図書館ポイント制度

図書館のサービス利用に応じてポイントが貯まる「図書館ポイント制度」を導入しました。期限内の図書の返却や、購入希望図書のリクエスト、イベント参加などによってポイントカードにスタンプを貯めると、景品と交換することができます。景品には、ミニショップ・学生食堂で利用できる金券やオリジナル3色ボールペンをご用意しています。対象となるサービスや景品は変動しますので、ポータルサイトなどの案内をご確認ください。

WEBサイト・SNSのご紹介

資料の紹介や利用者向けのサービスについて、ポータルサイトや、図書館情報センターのWEBサイト、公式Xで発信しています。



WEBサイト



X

スケジュール

SCHEDULE

2026年 9月 — 2027年 3月

本学の最新情報は
公式サイトを
ご確認ください。



在 在学生
卒 卒業生
教 教職員
保 保証人(保護者)
一 一般

2026年9月13日 日

在 保

ND育友会懇親会

時間／13:00～
場所／ユージニア館1階食堂
お問い合わせ／総務企画課
TEL.075-706-3700



2026年9月25日 金

在 教 保

前期卒業式・学位授与式

時間／10:30～
場所／ユージニア館聖堂
お問い合わせ／総務企画課
TEL.075-706-3700

2026年10月24日 土 25日 日

在 卒 教 保 一

ND祭2026

時間／10:00～17:00
場所／京都ノートルダム女子大学
テーマ／滞 —MIO—
お問い合わせ／学生課
TEL.075-706-3740



2026年11月19日 木

在 教

物故者追悼ミサ

時間／10:30～(予定)
場所／ユニソン会館大ホール
お問い合わせ／総務企画課
TEL.075-706-3700



2027年3月20日 土

在 教 保

卒業式・学位授与式

時間／10:30～(予定)
場所／ユニソン会館大ホール
お問い合わせ／総務企画課
TEL.075-706-3700



2026年11月14日 土

在 卒 教 保 一

『わかる・おもしろいのフクワクを あなたに! AIは魔法の杖?』 ～手を動かしながら学ぶAIの本質～

時間／14:00～16:00
場所／ユージニア館3階大講義室
参加費／無料
※詳細は大学公式サイトをご覧ください。



2026年12月17日 木

在 卒 教 保 一

ノートルダムクリスマス

時間／14:00～(予定)
場所／ユニソン会館大ホール
お問い合わせ／総務企画課
TEL.075-706-3700



その他のスケジュール

- 9/28:後期授業開始日
- 12/25-1/4:事務取扱休止
- 1/29:後期授業最終日
- 1/30-2/6:フォローアップ期間※
※補講を行うことがある

編集後記

▶「今」を残すこと。その大切さを改めて感じる機会の多い半年でした。新学長の就任、創立65周年という節目、そして学生たちが制作した映画『わたしらしく、誇らしく』。それぞれ異なる出来事ですが、どれも京都ノートルダム女子大学の歩みや学生たちの想いを未来へつないでいくものだと感じています。大学には日々さまざまな営みがありますが、その一つひとつが人と人をつなぎ、新たな学びや経験へとつながっています。本誌が、そんな「今」の記録として皆さまの心に残れば幸いです。(中)

京都ノートルダム女子大学 大学報 2026年9月17日

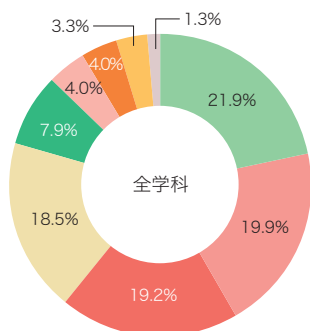
NDキャンパス通信 Vol.25

編集・発行／ 京都ノートルダム女子大学 管理運営部 入試・広報課
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地
URL : https://www.notredame.ac.jp
E-mail : kikaku-koho@notredame.ac.jp
制作／ 株式会社WAVE

本誌は京都ノートルダム女子大学ND育友会の資金援助を一部受けています。
※掲載している情報は制作時点(2026年8月下旬)のものです。

2025 年度卒業生 就職・進路実績

2025年度卒業生の最終就職決定率は97.4%と、高い水準を維持することができました。(2026年5月1日現在)



具体的な就職・進路先や学科毎の就職率については二次元コードからご確認ください。



京都ノートルダム女子大学への寄付のお願い

聖母マリアを校名にいただく京都ノートルダム女子大学は、建学以来、多くの皆さまからのご支援により支えられ、「徳と知」を兼ね備えた女性の育成を行ってまいりました。2026年4月に学生募集を停止した現在も、本学では在学生在が安心して学び続けられる環境を整え、最後まで質の高い教育を提供するため、教育活動や学生支援、奨学金制度の充実に取り組んでおります。

そのため、日頃より京都ノートルダム女子大学を応援していただいている皆さまに、教育充実資金のご支援を賜り、皆さまとともに京都ノートルダム女子大学のさらなる発展をめざして進んで参りたいと思っております。何卒ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

京都ノートルダム女子大学
学長 酒井 久美子

■ お申込み方法



I: 銀行振込によるご寄付

銀行・郵便局からご寄付いただけます。

II: インターネット募金

クレジットカード、インターネットバンキング(Pay-easy(ペイジー))、コンビニ支払のいずれか便利な方法を選択してご寄付いただけます。

III: リサイクル募金

皆さまから読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額をご寄付いただく取り組みです。

IV: ふるさと納税寄付金を活用した地域連携活動支援

寄付金については、京都ノートルダム女子大学及び京都市で取り組む、大学・学生と地域の連携促進事業等に活用されます。

Present

I: 銀行振込によるご寄付、II: インターネット募金による寄付を5,000円以上頂いた方には、以下のうちご希望の品をお送りいたします。

- A: ND祭(秋開催)で利用できるチケット(10月)
- B: 京都ノートルダム女子大学オリジナルグッズ(12月)

※領収書を送付する際に、書類を同封いたします。

ご希望の品物(AまたはB)をお選びのうえ、下記問い合わせ先へメールもしくはFAXにてご返信ください。

寄付金に関する
お問い合わせ

京都ノートルダム女子大学 管理運営部 財務課

E-mail: accounting@notredame.ac.jp TEL.075-706-3703 FAX.075-706-3707